

つなぐ

No. 5



院長 ご挨拶

昨年から、この広報誌「つなぐ」の発行を開始し、1年がたちました。今年度もまた地域の皆さまとさまざまな情報を共有し、連携を取りながら診療を進めてまいりたいと思います。



院長 須永 眞司

当院では、新年度の初めに各部署で、その年度の目標や計画、方針を話し合い、発表する「キックオフミーティング」を行っています。診療部(医局)でも、連休明けの5月8日に「診療部のキックオフミーティング」を行いました。従来から当院の方針としている、地域の医療・介護・福祉機関との連携を大切に、病院だけで患者を診るのではなく、地域全体で患者を診る姿勢についてあらためて説明し、一人ひとりの医師にその意識が浸

透るように話をしました。

診療部では、今年1月と4月に消化器内科医を1名ずつ、4月に外科医1名を常勤医として迎えたのですが、ミーティングの中で、それぞれ自分の専門を生かした新たな試みをしていきたい、という話も出てきました。次頁にキックオフミーティングの様子を掲載し、当院の取り組みの一端をご紹介しましたので、ぜひそちらもご覧いただきたく存じます。

それでは、今年度もどうぞよろしくお願い申し上げます。



トピックス

5月8日 診療部キックオフミーティングを行いました



診療部キックオフミーティング

5月8日に診療部（医局）の医師が一堂に会し、病院及び各診療科の今年度の目標や方針を説明・発表するキックオフミーティングを開催いたしました。以下に、そこで発表された内容の一部をご紹介します。

調布東山病院が取り組む3つのテーマ

最初に私（院長）から、今年度病院が取り組むテーマとして、

- (1) 急性期から在宅へ
 - (2) 地域における診療役割分担
 - (3) 人が成長する病院
- の3点を挙げ、これらについて説明しました。

入院したために廃用症候群を生じ、病気は治ったが寝たきりになった、というのはよく聞く話です。リハビリや退院支援機能を充実させ、ADLが落ちきらないうちに在宅に戻れるようにしよう、というのが「急性期から在宅へ」が意味するものです。病気を診るのではなくその人を診る、という意識を実践することが医師には要求されます。

「診療役割分担」では、地域の医療介護機関や救急隊からの診療要請に確実に応え、安定した慢性疾患患者は地域の先生方に逆紹介していく、という方針を確認しました。人口の高齢化が進むと、医療提供者が相対的に不足します。すべての患者さまに適切な医療を提供するためには、当院

のマンパワーだけでは難しいのが現実です。地域全体で患者を診療することが必要と考えています。

「人が成長する病院」として、当院は来年度から「内科専門医」の研修連携施設として、専攻医の教育も行う予定です。人を育てることで自分たちも成長し、診療の質を高めることを意図しています。

診療科ごとの方針を発表

次に、内科、消化器内科、外科、整形外科、放射線科、リハビリ科、透析センター、ドック・健診センター、訪問診療の各科・部門を担当する医師からも各科の方針が発表されました。消化器内科は今年に入って2名の医師が新たに加わり、それぞれの得意分野である内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）や内視鏡的逆行性胆道膵管造影（ERCP）の症例を増やしていきたい、という方針が発表されました。



▲（上）内科は中村ゆかり副院長が発表。（下）消化器内科はそれぞれの医師の得意分野の症例を増やしていきたい旨を発表。

外科も常勤医の交代があり、緊急手術にも対応できるようにしている、などの話がありました。

東山会としての長期目標

最後に理事長から、この地域を「日本で一番充実したトータルヘルスケアサービスを受けられる地域にしている」という、東山会としての長期目標があらためて語られました。そのために今年度、病院として取り組むべきものとして、今度の診療報酬改定で急性期病院として生き残る、退院支援の進化浸透、ユマニチュードの導入などいくつかの課題があり、それに診療部がどのように関わっていくか、が説明されました。

各科からの発表の詳細は、残念ながら、紙面の都合で書ききれないのですが、それぞれの思いを、予定の時間を超過して、熱く語ってもらいました。この場で発表された方針に沿って、皆で共有した地域医療への思いを胸に刻んで、診療に取り組んでまいりたいと思います。[文/須永 眞司（院長）]



▲キックオフ終了後の集合写真。診療部はじめ東山会職員一丸となり、今年度も地域医療に取り組めます。



トピックス

3月10日 看護研究発表会を開催しました

3月10日、「2016年度 看護研究発表会」を開催しました。この会は当院の開院間もない頃に始まり、毎年年度末に開催しています。当初は今のようにはパソコンもなく、手作りの展示や模造紙を使った発表でしたが、年月を経て職員に少しずつプレゼンテーションスキルがつかってきました。今年度の内容は右の通りです（発表順）。多くの職員が参加し、活発な質疑応答や委員・看護部長による総評、また表彰も行われ、意欲を高めました。これからも日々工夫や検討を重ねてまいります。

【外来透析センター】当透析センターにおける透析操作時の顔面周囲への血液飛散・汚染の実態

【外来】患者アウトカムに繋がるフットケアの検討

【5階病棟】効果的な口腔ケアへの取り組み

【桜ヶ丘東山クリニック看護部】透析室における運動療法を試みて

【6階病棟】呼吸理学療法に対する看護師の行動の変化

【訪問看護ステーション】認知症高齢者の服薬支援における訪問看護師の役割

【喜多見東山クリニック】注射針の置き忘れをなくす取り組み

【桜ヶ丘東山クリニック臨床工学部】脱血量の評価方法の検討

▶看護研究発表会の様子



トピックス

ユマニチュード推進室を設立しました

東山会では、これまで看護部を中心に、フランス生まれの知覚・感情・言語による包括的コミュニケーション『ユマニチュード』への取り組みを行ってまいりました。昨年8月には、病棟看護師2名がユマニチュード認定インストラクターレベル2（外

部講演が可能）の資格を取得。患者さまと医療者のよりよい関係をつくることを目的に、院内外でユマニチュードの哲学・技術を伝える講演を重ねてきました。

今年度は、今まで以上に東山会にユマニチュードを浸透させるべく、『ユマニチュード推進

室』を設立。看護師のみならず全職員にユマニチュードのメソッドを教育する体制を整えました。東山会を「まるごとユマニチュード」にして、地域の患者さまによりよい医療を提供できるよう院内研修を展開してまいります。

ユマニチュード推進室理念

1. 東山会を利用される患者さまが、誇りと尊厳を持って生涯を通じて暮らし続けることを支える。
2. 知覚・感情・言語による包括的コミュニケーションを理解し、患者さま対応に活用する。
3. 健康状態に応じた正しいレベルのケア・対応を選択し、患者さまが安心して穏やかに治療を受け、入院生活を送ることができる。
4. 職員が安心して気持ちよくケアや対応を行い、誇りを持って働くことができる。
5. 急性期病院として組織的に取り組み、ユマニチュード認定病院になる。

●ユマニチュード推進室科長 安藤夏子

ケアを苦痛に感じてしまう患者さま、気持ちが伝わらず仕事を辛く感じる看護師。医療・介護の現場に溢れるそんな関係を変える手段となるユマニチュードを広めるべく推進室が立ち上がりました。講演や実際のケアを通じて哲学や技術を伝えていきます。東山会にユマニチュードが根付いた時にどんな景色が見られるのかを楽しみに、皆さまの協力を得ながら一歩ずつ進んでまいります。

●ユマニチュード推進室主任 石川咲希

日々のケアを通しながら、患者さまにその人らしさを取り戻してもらおうと、そして昔の私と同じようにケアをすることに疲弊してしまっている人に、もう一度ケアの楽しさを思い出してもらいたいという気持ちで活動しています。少しでも皆さまのお役に立てれば幸いです。





トピックス

4月1日入職式を行いました

桜のつぼみがほころび始めた4月1日、入職式を行いました。今年も医師・看護師・技師・事務などそれぞれの職種で新しい仲間を迎えました。理事長・院長からの歓迎の言葉の後、早速研修が始まり、夕方からは、各部署の紹介。その後職員食堂へ場所を移し、懇親会を開催しました。「よろしくお願ひします!」という新たな仲間からの挨拶に、職員一同気持ちを引き締めました。



小川理事長からの歓迎のあいさつ



診療部



看護部



医療技術部



トピックス

戸田達史医師が日本学士院賞の受賞者に決定しました

当院にて土曜午後・神経内科外来を担当する戸田達史医師が、日本学士院賞の受賞者に決定しました。

日本学士院授賞制度は、明治43年に創設され、学術上特にすぐれた論文、著書、その他の研究業績に対して授賞を行っています。平成29年度で第107

回を迎え、6月に東京・上野の日本学士院において挙行されます。

戸田医師の授賞対象研究は、「福山型筋ジストロフィーを含めた糖鎖合成異常症の系統的な解明と新しい糖鎖の発見（共同研究）」です。



神戸大学大学院医学研究科
戸田 達史 教授

山田隆 Dr. の 季節の植物図鑑 Vol.5

カタクリ

日本では北海道から九州の山野に生える多年草。葉は楕円形で暗紫色の模様がある。開花時期は3月から6月、花びらは6枚、細長く淡い紫色で、先は強く反り返る。基部に濃い紫色の波形の模様がある。雄しべは6本で葯は濃い紫色をしている。茎は10cm～15cmで茎頂に1つの花が下向きに咲く。鱗茎は筒状で長さは4cmほどで良質のデンプンが取れる。現在市販されている片栗粉の主な原料はジャガイモです。



文・撮影 / 山田 隆 (リウマチ科)



とうざん's

新入職医師のご紹介



消化器内科 みせき てつや 三関 哲矢

はじめまして。三関哲矢と申します。平成10年に旭川医大を卒業し、北大第三内科（現消化器内科）に入局し、市立稚内病院などいわゆる沿岸警備隊として北海道の中を回っておりました。医局人事を離れて帯広第一病院に入職し、ここ2年間副院長を拝命しておりました。この度同院を退職し、こちらでお世話になることになりました。

私はもともと札幌で生まれたのですが、父が高校の教諭だったこともあり、次の年には函館に行きました。その後空知地方の奈井江町というところで小学校時代を過ごしました。札幌から旭川に向かって走る国道12号線沿いにあり、砂川の手前の町です。北海道の人間に奈井江といっても通じないほど奈井江は片田舎ですが、札幌からは70キロ程度でさほど遠くはありませんでした。戦後の日本のエネルギーであった石炭を生産する炭鉱が町内に2か所あったほか、美唄、歌志内、上砂川、芦別、夕張など炭鉱の町が周りにたくさんありました。革製品で有名なソメスサドルも歌志内の企業です。妻は同郷の出身ですが、こちらでヴァイオリニ

ストをしていることから私がこちらに転居することとなりました。

私の専門は消化器内科一般ですが、中でも胆膵系を中心に仕事をしておりました。超音波内視鏡を用いての観察はもちろん、ERCPも行いますし、POCSと呼ばれる親子式の経口胆道鏡も使います。また、EUS-FNAやEUS-BDなど、コンベックス型のEUSを用いた侵襲的な治療も積極的に行っておりました。胆膵系に限らず、消化器系の疾患を疑われましたら、お気軽にお声がけをいただければ幸いです。一日も早く地域と病院に慣れて皆さまのお役に立てるようになってまいりたいと存じます。どうぞよろしくお願い申し上げます。



外科 やまもと たつま 山本 立真

はじめまして。4月1日より調布東山病院の一員になりました外科の山本立真です。平成15年に大学を卒業後消化器外科、主に肝胆膵外科を専門とした研鑽を積んでまいりました。消化器癌の手術、急性腹症（急性虫垂炎、急性胆嚢炎、消化管穿孔等）、鼠径ヘルニア等の良性疾患に対する手術で受診され

た皆さまのお役に立てればと思います。

手術が終わった直後に患者さまやご家族によく「手術は成功しましたか?」と聞かれます。手術の成功とは安全に手術そのものが終了することだけでなく大きな合併症無く元気に退院していただくこと、そして究極の目標である病気を治すことを含めると思いません。癌は5年を目安に再発無く経過して初めて【治った】とお伝えすることができます。手術が終わって退院した後も信頼して外来通院して

いただける存在でありたいと思います。

私自身3児（小6と小2の息子、2歳の娘）の父として日々地域のありがたみを実感しています。これから自分の専門性を生かして皆さまに少しずつ還元していければ幸いです。よろしくお願ひいたします。



▲入職式に出席中の三関医師と山本医師

あっ! 調布にこんなところが

素材の味を楽しめるケーキ・パン・洋菓子のお店

イーチ ファン ペストリー



京王線「西調布駅」から徒歩6分ほどの旧甲州街道沿いにあるケーキ屋さん「イーチファン ペストリー」。この5月で3周年を迎えた当店は、地域の方々から愛されている人気店です。店内にはケーキ・パン・焼き菓子が100種類近く並び、そのバラエティーの豊富さに驚きます。

42歳の飯田剛オーナーシェフは、19歳から洋菓子の世界で経験を積み、上海の高級店で技術指導を行っていた腕前の持ち主。「均一で端正な美しさを求めるより、とにかく美味しそうに見えるケーキを作りたい」という思いから、着色料などは使用せず、素材本来の味をいかした商品を生み出しています。なかでも『イーチ ファン ロール』は、那須高原の御養卵を使用したスフレカステラで、北海道根釧地区の生クリームにマスカルポーネチーズを加えたクリームとカスタードクリームを包んだ逸品。まさに素材本来の味を楽しめる看板商品となっています。

フルーツなど旬の素材は、調布の八百屋さんから今一番おいしい素材を教えてくださいながら仕入れているという飯田シェフ。「商店さんをはじめ、いろんな方とご縁からよい素材と出会って、おいしいケーキ作りができています。これからもご縁を大切にしていきたいです」と笑顔。近所の酒屋さんからすすめてもらった日本酒の櫻正宗・金稀を使った「MASAMUNE～ sake ショコラ」も好評発売中。温かな人柄のシェフのケーキを味わいに、ぜひ当店を訪れてみてはいかがでしょうか。調布東山病院からも、歩いて15分ほどで行けますよ!



▲オーナーシェフの飯田剛さん



左前・和風マドレーヌ「FANFANのおやつ」(180円)、左奥・和風シフォンケーキ「FANFANのほっぺ」(130円)、中央・マフィン(各種230円～)、右・スコーン(各種230円～)



中央・「イーチファンロール」(280円) 右・「ほどけるショコラロール」(300円)

イーチ ファン ペストリー

- 調布市下石原1-43-7 (京王線西調布駅徒歩6分) (調布駅徒歩15分)
- 営業時間 / 11時～20時
- 定休日 / 水曜日
- 電話 / 042-426-7275



とうざん 写真部

ゴールデンウィーク前の日曜日、写真部員総出でカメラ片手に浜離宮恩賜庭園に出かけてまいりました。ヤマザクラや大きな牡丹が美しく咲き、大きな藤棚も淡い紫色に染まっていました。特にボタン園は圧巻で、60種、800株が植えられています。広い庭園内で夢中になってシャッターを切り続けた部員でした。

新緑の浜離宮に行ってきました!



トピックス

5月13日 第1回『つなぐカフェ』を開催しました

地域の皆さまをお招きして、認知症や健康について看護師や保健師、ケアマネジャーとお話いただく『つなぐカフェ』を開催しました。当日はあいにくのお天気に

もかかわらず約20名が来場。おいしいお菓子(左ページのイーチファンペストリーさんのお菓子も登場!)を食べたり、コーヒーや新茶を飲みながら話に花を咲かせました。褥瘡、嚥下、ユマニチュードの3テーマについて各回10分程度のミニ講演も開催。参加者の皆さまからは「ためになりました」「楽しかったです」「リラックスして話げできました」といった感想

をいただきました。皆さまの疑問や不安を少しでも解決し、明日につながられたことを願っています。

▶会場はパノラマの眺望が自慢の当院7階食堂。



和やかな雰囲気でお話しいただけるようテーブルにかわいいお花を飾りました! ◀



きたみん活動

4月2日 きたみんが「柴崎さきちゃんのバースデーパーティー」に参加しました

調布のご当地キャラ「柴崎さきちゃん」のお誕生日会に参加するため、京王フローラルガーデンアンジェに行ってきました。調布を盛り立てるお友達をめぐりお祝いしたきたみんでした。



▲[写真左] 柴崎さきちゃん(右から2番目)とお友達と記念撮影。[写真右] さきちゃんのバースデーケーキのお披露目。



@kitamin1031

ツイッターでもっと詳しいきたみんの活動を紹介しています!

第11回

調布薬業連携の会

6 / 24 (土)

18時30分～20時

地域に頼られる薬剤科を目指し、東山会薬剤科では2011年より「調布薬業連携の会」を開催しています。

今年度は、通年3回シリーズで右記の内容に取り組んでいきたいと考えております。

ご多忙の時期と存じますが、万障お繰り合わせの上ご参加いただきますようお願い申し上げます。

『地域で取り組む 喘息・COPD患者への吸入指導 ～吸入指導ネットワークの構築～』

講演内容(予定)

- 呼吸器医師による講演
- 吸入指導ネットワークのDVD鑑賞 (製薬会社提供)
- 意見交換会



会場
調布東山病院
7階会議室

問い合わせ
電話 / 042-481-5594 FAX / 042-481-5519
調布東山病院 薬剤科



地域連携室課長 ご挨拶

いつも東山会との地域連携にご協力をいただきまして、誠にありがとうございます。

新年度を迎え、地域連携室も診療部と同じくキックオフミーティングを開催いたしました。地域連携室では、ご紹介いただく患者さまのよりスムーズな受け入れ、そして安定した慢性疾患患者さまの地域の先生方への“逆紹介促進”を大きな目標のひとつに掲げています。

そのためにも、今年度は地域連携室メンバーが病院から飛び出し、地域の病院・診療所の先

生方、介護機関の皆さまへ可能な限りごあいさつにうかがいたいと思います。お忙しい中お時間をいただくこととなり恐縮ですが、どうぞよろしくお願いいたします。

[地域連携室課長 杉田 薫]

ソーシャルワーカーご挨拶

いつもお世話になっております。現在、地域連携室には2名の医療ソーシャルワーカー(MSW)が在籍しています。退院支援ナースとともに入院患者さまの退院支援を行い、また外来患者さまの療養生活上の相談

も承っております。

地域の患者さまが、住み慣れた地域で自分らしく療養生活を送ることができるよう、その土台づくりのためにMSWも院外に出て、関係機関の皆さまとネットワークを作っていけたらと考えています。地域連携室が一丸となり、連携室のありたい姿の“笑顔で地域を支え、思いをつなぐ架け橋”を目指し、日々取り組んでおりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。
[地域連携室 MSW 芦田 優子]

地域の医療介護を支える仲間向けイベント

第6回 調布東山病院 医療・介護勉強会

～その人らしく暮らせる地域を目指すために～

講演テーマ

『褥瘡ケアについて ～事例報告～』『2016年 地域見守り訓練 ～開催の様子と気づきの報告～』『地域のケアマネジャー 活動報告』『急性期病院の退院支援 ～地域との連携～』『認知症患者ケアへのユマニチュード 導入とその効果』

日時 / 6月9日(金) 18:30～20:30 (開場 18:00)

会場 / 調布東山病院 7階 食堂 参加費 / 無料 (軽食を用意しています) 定員 / 50名
お問合わせ / 調布東山病院 居宅介護支援室 小笠原 (電話: 042-481-5731)

連携室からのお知らせ
今回の運動療法教室

運動のキッカケ
づくりにも!

ヒーリングヨガ教室

地域連携室では毎月、健康増進を目的とした運動療法教室を開催しています。今回は、ヨガインストラクター2級の資格を持つ当院医事課スタッフが講師をつとめるヨガ教室です。アロマが香る空間で、心と身体をほぐします。

6月24日(土) 14時～15時

会場 / 調布東山病院 7階会議室 参加費 / 無料
申し込み / 地域連携室までお電話をお願いします。

医師向けイベント

次回の調布医療連携カンファレンス

7月11日(火)に開催いたします。

講師 / 当院リハビリテーション科 大熊 るり 医師

テーマ / 『嚥下機能 ～治療編～』

2015年7月に開催しました第8回調布医療連携カンファレンスでの講演『嚥下機能～評価編～』に引き続き、治療編についてのカンファレンスを予定しています。嚥下障害があってもできるだけ安全においしく食べるにはどうしたらよいか、在宅で行えることを中心にお話いたします。とろみつきのお茶を飲んだり、きざみ食を食べていただく実体験コーナーもございます。ご参加を心よりお待ちしております。

※参加申し込みの詳細は後日ご案内いたします。

